

近時往來

一九九二年度

会長 上田 博

例の「パブル」が弾けて、いろいろな社会現象が起こりましたが、その一つに、「長男復活」願望があります。

先頃終わったテレビドラマの「並木家の人びと」のテーマはここにあって、と見ました。瀬戸内に沈んだ輪送船を引揚げる夢を見つつける生き残り兵大滝修治と、父の夢に一攫千金の野望を抱く次男陣内、彼らに鋭く対立する長男武田鉄矢のくみ合わせです。ここには戦争の終わらない世代の問題、パブルの象徴としての次男と銀行員長男のとり合わせ、といった現代の縮図もかくされています。瀬戸内に昇る太陽のラストシーン、白鳥の名作『二家族』を想起させる美しい場面でしたが、並木家の崩壊を体当りで阻止する長男武田鉄矢に大いに感動しました。長男物

語は四月の新番組「ひとつ屋根の下」の江口洋介がひきついでいます。江口洋介は「愛という名の下」以来、大好きなスターの一人ですが、今回はじめて主人公の長男役です。少年院帰りの弟や、会社の上司と恋愛中の妹や、身体障害の弟などを抱え込んで、この長男江口洋介の奮闘が大いに期待されます。この二つのテレビドラマの共通は、親を失なっている点です（「並木家」の場合は、最後に父大滝修治が死にます、「ひとつ屋根の下」は両親は交通事故死です）。古いイエの大黒柱であった〈父〉が高齢化し、あるいは鬼籍に入りつつあり、その息子（娘）たちは高度経済成長期に成人し、子供をもうけ、すでにかなり勤続疲労が進んでいます。そうして好むと好まざるとにかかわらず核家族のユメが破れつつあります。頼るべきは〈長男〉です。ところが疲れ切った長男には、イエ共同体を支配する経済力も法的

保護もありません。それでも長男を軸（支配者でない！）として新しいイエ共同体の創出が求められているのではないでしょうか。金に依らず、權威に依らず、横並びの人間関係の中から、新しい秩序を作り出してゆく。

以上の駄文は、「長男よ出て来い！」と言えば足りるのであるが、ちなみに、ぼくは毎日テレビ番をする意欲者の長男です。